

GRAND CYCLE TOKYO 実行委員会 第 1 回事業最適化部会
議事要旨

日時：令和 7 年 5 月 28 日（水） 15 時 00 分～16 時 00 分

場所：都庁第一本庁舎 33 階 特別会議室 N4 及びオンライン

1. 開会

2. 委員紹介

3. 審議事項

（1）事業最適化部会について

- GRAND CYCLE TOKYO（以下、「GCT」という。）事業の課題、協賛獲得戦略、今後の方向性について検討を深めるため事業最適化部会（以下、「本部会」という。）を設置。本部会において主な検討の視点は以下 3 点。
- 1 つ目に、当実行委員会が開催する「THE ROAD RACE TOKYO」と「レインボーライド」の実地視察等による事業の分析、検証
- 2 つ目に、国内外の大会、マラソン等の他路上競技等との比較検討
- 3 つ目に、大会開催後に実施する関係者ヒアリング結果等も参考に今後の方向性の検討
- 今後の予定は、資料に記載のとおり、9 回程度の開催を予定
- これまでの取り組みについて、令和 5 年度に事業最適化検討チームにおける検討を実施
- 第 1 回事業最適化部会では以下の検討の視点から、各委員にご意見いただく
- 1 つ目、開催のあり方・都民支持について
開催場所、開催時期・時間、周回コースの設定、イベント開催によるメリット及び負担、

地域の魅力発信、多摩の地域振興、都民からの支持

- 2つ目、収入増・新たな価値創造について
ブランド価値・認知度向上、両大会の相乗効果、リピーターの獲得、協賛金・参加料・放映権料の獲得、海外発信の強化、UCI との連携
- 3つ目、費用対効果について
安全対策費の見直し、両大会の共通経費の統合、契約方法の見直し、マネジメントコスト

【委員からの意見】

- 1つ目、開催のあり方、都民支持について
 - レインボーライドと THE ROAD RACE TOKYO を連日開催することで相乗効果が向上
 - 集客をコンセプトとするなら、ワンウェイではなく周回コースが望ましい
 - ファミリー層から上級者まで、より多くの参加者が楽しめるような企画が重要
 - より集客を図るには早朝ではなく、昼の時間帯の実施が望ましい
 - 地元と協力し、地元から盛り上げるようなイベントへ成長させる必要がある
 - 交通規制による地元への負担とレースによる地元の満足感のどちらが大きいかが重要
- 2つ目、収入増・新たな価値創造について
 - GCT 事業のブランディングとして、知名度の高いレインボーライドを軸にブランディング向上を図るほうが良い
 - 海外の他大会と繋がりがあるのであれば、他大会の参加者がレインボーライドにも参加したいと思える工夫が必要
 - レースとライドイベント、自転車メーカーのショーのような複合的イベントを開催することで魅力を高めることができる
- 3つ目、費用対効果について
 - 経費削減の観点から、レインボーライドと THE ROAD RACE TOKYO を一体的に開催するという考えもある
 - 安全対策費は削減しすぎると安全性がおろそかになるため、注意深く見直しすべき
 - 今後の継続のため費用の観点からも周回コースを設定し毎回同じコースでの実施が効果的

- レインボーライドでは、安全性の重視と物価高騰を理由に安全対策費は増加しているが、それ以外の項目については効率化を図られている。引き続き精査を進めてほしい

4. その他

(1) 今後の事業最適化部会のスケジュールについて (予定)

- 6月下旬頃：第2回事業最適化部会の開催を予定

【委員からの意見・質問 なし】

5. 閉会